

日吉台地下壕保存の会

会報

第43号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL. 045-562-1282

(年会費) 一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号00250-2-74921

(加入者名) 日吉台地下壕保存の会

賛同者各位

1997年7月

賛同団体各位

『第5回 平和のための戦争展』
——御報告とお礼——

平和のための戦争展実行委員会

暑い日が続いておりますが、皆様におかれましては益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

去る6月14日・15日、『第5回 平和のための戦争展』は、両日共に天候にも恵まれ、多勢の方々の御来場をいただき成功裡に終わることができました。

これもひとえに御賛同下さいました皆様方のお力添えの賜物と心より御礼申し上げます。

さて、『海軍蟹ヶ谷通信隊地下壕』については、ごく最近、住民の熱意ある働きかけと川崎市の御理解をいただき、保存されることに決定致しました。

また、『陸軍登戸研究所』（現明治大学生田校舎敷地内）については、明治大学人文科学研究所による3ヶ年研究計画の最終年度が今年度にあたり、実態解明が大いに期待されるところです。

そこで、私達は、『海軍連合艦隊司令部・艦政本部地下壕（日吉台地下壕）』も含めて、過去の戦争の事実を伝えるための大変な証拠として、形ある教材として、重要な戦争遺跡の保存を強く訴える活動をこれからも進めてまいりたいと思います。

これからも、御支援・御協力のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

目次

ページ

川崎・横浜平和のための 戦争展 ご報告とお礼	1	「戦争遺跡保存全国 シンポジウム」に参加して	3
同 感想文集	6	連載日吉台地下壕	
同 会計報告	8	当時の関係者の思い出話	4~5
『戦争遺跡保存全国ネット ワーク』結成をよろこぶ	2	幹事会報告	7
		平和のための戦争展かながわ	8

『戦争遺跡保存全国ネットワーク』結成を喜ぶ

幹事 酒井 啓

七月二一日、長野県松代において、戦争遺跡保存に関しで画期的な『戦争遺跡保存全国ネットワーク』が結成された。

この組織の活動は、近現代史における戦争実相の調査研究や戦争遺跡の史跡・文化財としての保存を目的に、①関係機関に対する要請、②シンポジウムなどの開催、③会報

すでに『産業考古学会』が一九七七年に設立され、実績をあげている。『戦跡保存ネットワーク』も、これに匹敵する実力を付けていくことを期待したい。

『戦跡保存ネットワーク』結成に先立つて、『戦争遺跡保存全国シンポジウム』と第一・第三分科会が行われた。

『シンポジウム』では、広島・沖縄・神奈川・京都・松代・中国黒龍江省(虎頭要塞)の各地域における戦争遺跡の保存状況が報告された。

近現代遺跡の調査・保存に影響力のある組織としては、

すでに『産業考古学会』が一九七七年に設立され、実績をあげている。『戦跡保存ネットワーク』も、これに匹敵する実力を付けていくことを期待したい。

日本国外にも、北アジア・東アジア・東南アジア・南アジア・ミクロネシア・メラネシア・ボリネシア・オーストラリアなどの非常に広大な地域に広がっている。これら全部を詳細に調査するのは、少なくとも四〇～五〇年はかかるのではないか。

学術調査は、戦争遺跡の保存価値についての有効な説得論理・説得材料を提供するだろ。従つて、プロ・アマチュア研究者の今後の活躍が非常に期待されている。

ところで、学術調査と保存運動(一般市民主体によるもの)とは領域を異にし、互いに独立である。そこで、学術調査はどこまでも学術調査として発展しなければならない

は、ある程度予測はしていたが、戦争遺跡の数のすさまじさである。今後の研究調査と保存の困難さが目に見えるようだが、学術研究の超巨大な鉱脈が広がっているともいえ
る。

主に、文献史学(狭義の歴史学)・考古学・土木工学史的調査などである。分科会報告会では、特に考古学的調査の重要性が指摘された。

一方、分科会で確認された調査はどこまでも学術調査として発展しなければならない

ものであり、保存運動はまだ保存運動としてその発展を期待されるものでなければならない。

それにもかかわらず、学術

調査と保存運動は、やり方によつては、十分に両立しうるだろう。学術調査と保存運動とが、戦跡保存に向けて、車の両輪のごとき協力・補完を行なうには、当事者が互いの仕事をよく知る必要がある。少なくとも、研究者による一般市民への卒業論文指導に匹敵するような啓発（これは大変だ）と、一般市民の自力による学術的教養の強化（これもかなりの努力がいる）が必要なのではないか。

長野市松代町で七月二〇～

素晴らしい晩になりました。

二一日に開催された「戦争遺

跡保存全国シンポジウム」に、

日吉台地下壕保存の会より参

加の三名のうちの一人として

出席してきました。

当日は、各地で活動してい

る保存運動の市民団体や、グ

ループの代表の方々と出会い、

お互いの情報交換、平和への

願いを語り、学びあつてきま

した。

全国から二二二団体を迎えた「松代大本營の保存をす

める会」の方々の生き生きとした輝く笑顔が、今でも私

のまぶたに焼きついておりま

す。松代の方たちは本当によ

く頑張っているのだなと頭の

下がる思いでいっぱいでした。

交流会での楽しいひととき

は、全国からの遠路の疲れも

それで、みんなが仲間として

心かよい合せることができた

て条件がよいということです。

分科会も無事に終わり、最

後の挨拶で沖縄の「南風原陸

軍病院壕群保存の会」代表の

方は「来年は、沖縄でみなさ

んとお会いしましょう！」と

結んでしまいました。大きな

拍手の中で、これからは全国

に仲間がいるのだ、出来たの

だと思い、共に一步一歩やっ

ていこうと考えを新たに帰つ

てきました。

松代の会員の方々は、今ごろ大役をはたされホツとされ

ているころだと思ひます。本

当にお疲れ様でした！！

それにしても新幹線開業の

ためか善光寺の形をしたおも

むきのあつた長野駅舎がとり

こわされており、いろいろな

思いが込み上げてきました。

これは県外人間の感傷でしょ

うか！どこにでもある駅ビ

ルがそこにありました。

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 21

空襲

★A1氏・宮前

昭二〇年四月四日に空襲を受けた。最初、焼夷弾が落ちた。当時、藁葺屋根であったので燃え易かった。父母亲は井戸からつるべで水を汲んで消火に当つていた。

一段落して、朝方井戸のまわりで休んでいた時、突然一五〇キロ爆弾が落ち、叔母一人と母が亡くなつた。また、当時醤油を醸造していたが、従業員の若い衆が、落ちてきつた底の下敷になつて亡くなつた。姉が一人だけ助つたが、姉も大腿部に爆弾の破片が入る傷を受けた。この破片は二

ゞ三年後取り出した。自分はまだ八才と小さかつたので、家で掘つた防空壕に入つていて助かつた。この時、落ちた一五〇キロ爆弾は一一発で、二発が破裂し、九発は不発だつた。不発が多いのは命中率をあげようと低空から落としたためといわれる。不発弾のうち八発は掘り出されたが、一発は行方が分らず、まだ地下に埋つたままであるという。この爆弾攻撃は寄宿舎にあつた連合艦隊司令部目がけて落としたものがそれたと思われる。

昭和二〇年四月四日、一五一六日、五月二十四日の三回が、空襲の中でも大きく、箕輪二三軒、宮前二〇数軒が焼けた。我が家も大聖院（箕輪町のお寺）と同じ時に焼けた。当時海軍に強制的に買上げられた貸家が三軒あつたが、一軒焼けた。日吉の駅前は余り

を落とした。地下壕の入口のある山根に沿つた家が焼かれたのは、ここに軍の地下壕があることが分つていたからではないか？ 空襲はその後もちょこちょこあつて何回もやられた。

★K1氏・箕輪

昭和二〇年四月四日、一五一六日、五月二十四日の三回が、空襲の中でも大きく、箕輪二三軒、宮前二〇数軒が焼けた。我が家も大聖院（箕輪町のお寺）と同じ時に焼けた。当時海軍に強制的に買上げられた貸家が三軒あつたが、一軒焼けた。日吉の駅前は余り

空襲で焼けた家は、日吉本町では八軒で一人亡くなつた。爆撃は占領政策も考えてやつていてようで、毒ガスを作つて昭和電工がやられ、日産はやられなかつた。

戦後、米軍が日産に進駐し、自動車の修理をしていた。

★M氏・日吉本町

空襲で焼けた家は、日吉本町では八軒で一人亡くなつた。爆撃は占領政策も考えてやつていてようで、毒ガスを作つて昭和電工がやられ、日産はやられなかつた。

空襲の時、兵隊は安全な地下壕に避難したが、民間人は入れてくれなかつた。爆撃機B29は西の静岡方面から飛んできた。矢上小学校の西側に高射砲陣地があつた。

★金子善一氏・元連合艦隊司令長官付の従兵

日吉に移つて間もない昭和一九年一〇月頃、グラマンの銃撃を受けた。

横浜大空襲の時は、夜B29がら焼夷弾が落ち、壁や床に当つて燃えはじめ、毛布で消火ソリューションを撒いてから焼夷弾止めた。

目がけて二五〇キロ爆弾を落とされ、民家に当り何人か亡くなつた。矢上台にあつた陸軍の高射砲陣地から撃つているのを見たが、飛行機まで弾が上がらず、爆発して破片がバラバラと落ちてきた。

空襲の時は長官の軍刀や掛軸などを持つて、地下壕の階段を降りたり昇つたりした。

★A氏・宮前

昭和二〇年四月、千葉の勝浦に移つた。海上の見張りをしていて、艦砲射撃や空襲を受けた。この頃、家が戦災にあい、隊長から「家が燃え、心配だらうな」と声をかけられた。「心配ありません」と答えたが「一週間行つてこい」と言われ、家に帰つた。宮前の四八軒のうち二六軒がやられていた。家には焼夷弾が束になつて落ちてきたという。

日吉に海軍が来たため、空襲を受けたわけである。家族はバラックを建てて住んでいた。軍の高射砲陣地から撃つているのを見たが、飛行機まで弾が上がらず、爆発して破片がバラバラと落ちてきた。

昭和二〇年四月四日の大空襲で、木造二階建ての機関科の宿舎が焼け、藤原という部下が亡くなつた。焼夷弾の直撃を足に受け、歩けなくなつたので、2階から飛んで死亡したのであつた。機関科の五六人で近くの保福寺にて供養した。

★菅谷源作氏・元連合艦隊司令部電気長

昭和二〇年五月二十四日の空襲で日吉本町が焼け、我が家も焼失した。藤原工大の校舎が良く燃えているのを見た。焼夷弾が肩に当つて死んだ兵士がいた。高校校舎の屋上をグラマン艦載機が攻撃していつたが、その機銃掃射の跡が残つていた。屋上には機関砲が備えられていて、応戦していた。

昭和二〇年五月頃、高校の前で皆に話を聞いて、グラマンに撃たれたことがあつた。

★久保寺重夫氏・日吉本町・元東京警備隊第七分隊

昭和二〇年五月二四日の空襲で千葉朝夫氏・元海軍省経理課で日吉本町が焼け、我が家も焼失した。藤原工大の校舎がよく燃えているのを見た。防空指揮官であつた。防空壕は高さ二尺、幅二尺位で、コンクリートの所や素掘りの所

額から血を出しているところを東京警備隊が保護し、坪井隊長と軍令部の人尋問した。その後、大船の捕虜収容所に連れていかれた。

★千葉朝夫氏・元海軍省経理局第三課

空襲の時は校内放送があり近くの防空壕に入つた。私は防空指揮官であつた。防空壕は高さ二尺、幅二尺位で、コンクリートの所や素掘りの所

★斎藤君子氏・元海軍軍令部第三部理事生

空襲警報がなると地下壕に入つた。最初は校舎の近くの壕に入つた。後になるとずっと離れた通称イタリア半島の地下壕に入つた。数回入つた。地下壕の中は広くはなく、素掘りで水がしたたり落ち、湿地の人々トビロでなぐられ、

B29が羽田沖方面に落ちていき、米兵がパラシュートで乗つていた兵士は捕虜にされて連れてこられた。こちらの顔を見られないように隠しがれていた。テニアン航空隊のB29の右翼機銃員であった。土

(生協ニュース教職員版第四六、四九、五〇、五三号より)

川崎・横浜平和のための戦争展

97

感想文集

*従姉が戦時中動員で日吉の連合艦隊司令部に書記生として勤務していたと昭和二五年頃に聞いた。自分も学徒軍として華北に動員されており、内地での敗戦の様相は知らぬが、海軍が陸に上がるという状況は信じられない。思えば愚かな戦争をしたものだ。犠牲者の無念さは何とも言い難い。

無戦の誓い、平和希求のシンボルとして地下壕の保存を望みたい。城法谷の蟹ヶ谷地下壕についても同じ。

(七〇代男)

*学校でおしえてもらつたので來た。みんなでかいちゅうでんとうをけして、いのつたとき、こわかつた。もっとおくまで入れたらいいと思う。(小三女)

*城法谷の運動に参加して、

展示されていたのでよかつた。
(一〇代男)

日吉台地下壕のことをもっとくわしく知りたいと思いまし
た。川崎に生れ育ちましたが、あの戦争中、これ程のものを作つたのかと驚きました。

暗闇の中で、朝鮮人の流した汗と血、ここからの発信で死んでいった日本の若者のこと

を思い、胸が痛くなりました。
子や孫に、保存と、戦争を許さない勇気を、平和な日本を

つくる力を学んでほしいと強く思いました。(六〇代女)

*上原良司氏の遺品、遺書の展示は圧巻。戦争の悲惨さを訴える写真等の展示が欲しい。

「特攻」の解説は簡潔にまとまっている。多くの方に読んでもらいたい。(六〇代男)

*この前見学した日吉台や蟹ヶ谷の地下壕のことをくわしく知ることができた。また登戸研究所に関することが色々

中身は知らないでいます。

同じことを繰り返したくない

と平和を願う気持ちは沢山持つていても、それを表現するためには、やはり事実をしつかり見たり、学ぶことが大切だと思った。(四〇代女)

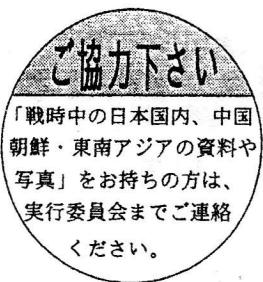
特攻隊の資料もテレビで見るのと違つて胸が痛くなつてしましました。(四〇代女)

*終戦時、私は小学二~三年度と戦争をしないように努めました。(七〇代男)

*今日はじめて、日吉台、蟹ヶ谷、登戸のことを知りました。戦争に関する事実を一つひとつ知ることの大切さを感じました。

日本軍がどこで、何をやつたのか、当時の国民は事実を知られず、現在の私たちも戦争があつた歴史的なことだけは誰でも知つているが、その

戦争は決つしてしてはならないと思うと同時に人間の欲が、感情がここまで気を狂わすものかと恐ろしい感情で一杯です。どうかこうした展示会を続行されるよう願つてやみま



平和のための戦争展かながわ

せん。（六〇代男）
*こんな近くで、このような
事があつたのに、私たちの年
代では本当のことが知らされ
てなかつたので、今回の説明
で良く解りました。
私たちの年配の者は「このよ
うなことは忘れててしまいたい」
と話さないので、展示はもつ
ともつと何回もやつて大勢の
人に見せて欲しいです。でな
ければ本当の平和は遠いもの
となります。

戦争の恐ろしさを若い人に語
つていきます。（六〇代女）

一、六月一四～一五日川崎横
浜平和のための戦争展'97（第
五回）開催

二、同二〇日「ピース・ミュー
ージアムよこはま（以下PM
Yと略）」実行委員会に出席

三、同二四日TBS「ここが
知りたい」で地下壕放映

四、同二六日「P.M.Y.」事務
局会に出席

五、七月七日地下壕入口の地
主の代理人の方からマンショ
ン計画に伴う道路図面を受け
取る

地下壕入口にかかるないよう
マンションが建築される模様

六、同八日戦争展かながわ第
四回実行委員会に出席

七、同一二日「稻田郷土史会」
による見学会100名参加

（六〇代男）

*こんな近くで、このような
事があつたのに、私たちの年
代では本当のことが知らされ
てなかつたので、今回の説明
で良く解りました。

私たちの年配の者は「このよ
うなことは忘れててしまいたい」
と話さないので、展示はもつ
ともつと何回もやつて大勢の
人に見せて欲しいです。でな
ければ本当の平和は遠いもの
となります。

八月一〇日午後一時半
日吉地区センター

報告

日吉地区センター

浜平和のための戦争展'97（第
五回）開催

一、同二〇～二一日「戦跡

保存全国シンポジウム」「戦

跡保存全国ネットワーク（仮

称）結成大会」に寺田、酒井、

一ヶタワー、三階「フォーラ

ムよこはま」にて開催

二、同二二日シンポジウム

に参加した沖縄の人（四名）

の地下壕見学会、読売新聞記

者同行計七名参加

三、同二四日TBS「ここが
知りたい」で地下壕放映

四、同二六日「P.M.Y.」事務
局会に出席

五、七月七日地下壕入口の地
主の代理人の方からマンショ
ン計画に伴う道路図面を受け
取る

六、同八日戦争展かながわ第
四回実行委員会に出席

七、同一二日「稻田郷土史会」
による見学会100名参加

八、同一日「P.M.Y.」事務

局会に出席

九、同二九日「P.M.Y.」実行

委員会で赤煉瓦倉庫見学会

一〇、同二〇～二一日「戦跡

保存全国シンポジウム」「戦

跡保存全国ネットワーク（仮

称）結成大会」に寺田、酒井、

一ヶタワー、三階「フォーラ

ムよこはま」にて開催

一一、同二二日シンポジウム

に参加した沖縄の人（四名）

の地下壕見学会、読売新聞記

者同行計七名参加

一二、同二五日港北区民会議

地域懇談会で日吉台地下壕保

存のための調査費の予算計上

を要望

一三日、同二九日慶大小松理

事と鮫島会長、東郷副会長の

非公式会談

一四、同三一日「P.M.Y.」事

務局の横浜市史編集室見学会

一五、八月三日豊島学院高校

生徒による見学会六名参加、

朝日新聞記者同行

一六、同六日テレビ朝日取材、

一五日一七時よりスープーJ

にて放映予定

一七、同六日「P.M.Y.」主催

「戦争体験を語る」シンポジ

ウム約六〇名参加（ランドマ

ムよこはま」にて開催）

一八、同六日読売新聞「語り

継ぐ夏」に地下壕掲載される

一九、同七日神奈川新聞に六

日の「P.M.Y.」のシンポジウ

ムの記事が掲載される

二〇、同七日横浜市史編集室見

学会で日吉台地下壕保

存のための調査費の予算計上

を要望

二一、同七日横浜市史編集室見

学会で日吉台地下壕保

存のための調査費の予算計上

を要望

二二、同七日横浜市史編集室見

学会で日吉台地下壕保

存のための調査費の予算計上

を要望

二三、同七日横浜市史編集室見

学会で日吉台地下壕保

存のための調査費の予算計上

を要望

二四、同七日横浜市史編集室見

学会で日吉台地下壕保

存のための調査費の予算計上

を要望

二五、同七日横浜市史編集室見

学会で日吉台地下壕保

存のための調査費の予算計上

を要望

二六、同七日横浜市史編集室見

学会で日吉台地下壕保

存のための調査費の予算計上

を要望

二七、同七日横浜市史編集室見

学会で日吉台地下壕保

存のための調査費の予算計上

を要望

二八、同七日横浜市史編集室見

学会で日吉台地下壕保

存のための調査費の予算計上

を要望

二九、同七日横浜市史編集室見

学会で日吉台地下壕保

存のための調査費の予算計上

を要望</p

'97

平和のための戦争展かながわ

語り継ごう戦争を……「憲法施行50周年」の、いま

明治憲法のもと、15年にわたったアジア太平洋戦争で日本軍が殺した人びとは2千万人を超みました。

戦争を放棄し、軍隊と交戦権をもたないとはっきりうちだした平和憲法のもと、50年間に日本軍（自衛隊という名）が殺した人びとはゼロでした。この事実を私たちは大切にしたい。今年の「戦争展」は、戦争の時代に学校やこどもたちがどんな状況に置かれていたのか、子どもの人権や個性を大切にする憲法・教育基本法・子どもの権利条約がしめすところと、どんなにかけはなれたものであつたかを見つめます。

【オープニング】「29日（金）午後2:30分」

●あいさつ 実行委員長弓削 達（元フェリス女学院大学学長）

●講 演 小川武満（平和遺族会全国連絡会代表）

【おはなし】「30日（土）午後2:00分」

●山中 恒（児童読物作家）

8月29日(金)～8月31日(日)
午前10:00～19:00
(但し最終日31日は午後5時まで)

鎌倉芸術館ギャラリー 入場無料

(JR大船駅東口徒歩10分)裏面地図参照

◆パネル展示 ◆特設会場でビデオ上映・朗読劇「鳥のとぶ空を」上演など

高校生の作品展示、クイズコーナー、感想文募集

主催 97平和のための戦争展かながわ実行委員会 /TEL045(212)5855/FAX045(212)5745

後援 神奈川県 神奈川県教育委員会 鎌倉市 神奈川新聞 朝日新聞 読売新聞 毎日新聞
東京新聞 テレビ神奈川 NHK 協賛 coopコースかながわ

川崎・横浜平和のための戦争展会計報告をいたします。

収入の部

前回繰越金：	2 9 9 2 8
賛同金：	2 3 6 8 0 0
イベント参加費：	3 7 5 0 0
資料代：	9 4 0 0
書籍売上からの手数料：	3 2 9 6 0
カンパ：	1 2 4 5 5 4
<hr/>	
	4 7 1 1 4 1

川崎市からの補助金：
5 0 0 0 0

計 5 2 1 1 4 1

支出の部

場所代：	5 5 6 2 0
運営費：	9 7 0 3 0
事務通信：	2 3 0 8 8
印刷：	4 0 0 3 0
材料費：	2 0 7 1 3
謝礼：	1 7 3 6 8 0
交通費：	7 6 4 8 8
<hr/>	

計 4 8 6 6 4 9

次回繰越金：¥3 4 4 9 3

ありがとうございました。

